

事業計画書

<p>現在の地域課題に対する本事業での実施内容</p>	<p>本事業は、『食 × 自己肯定感 × 居場所』を基本理念とし、子どもと保護者が安心して集い、心身ともに健やかに過ごすことができる地域環境の整備を目的とする。</p> <p>現代の子育て環境においては、核家族化や地域とのつながりの希薄化により、保護者が孤立感や不安を抱えやすい状況が生じている。特に、子育てに関する悩みを共有する相手や、安心して立ち寄れる居場所を持ってない家庭も少なくない。こうした状況は、保護者の心理的負担を高めるだけでなく、子どもの自己肯定感や情緒の安定にも影響を及ぼしている。</p> <p>ぬくもり絆プロジェクトでは、R6年度・R7年度を通じて、『食』を入口に人と人が自然につながり、否定されることなく受け入れられる関係性の中で、親子が安心して過ごせる居場所づくりに継続的に取り組んできた。</p> <p>ここでいう『食』とは、単なる栄養摂取ではなく、体を育む栄養であると同時に、心を満たす大切な要素である。誰かと食卓を囲むこと、温かい食事を受け取ることは、『大切にされている』『ここにいていい』という感覚を育み、子どもと保護者双方の自己肯定感の土台となる。</p> <p>R8年度は本補助金の最終年度にあたるが、本事業自体は補助金終了後も地域に根づき、継続していくことを目指している。そのためR8年度は、これまでの取り組みを通じて培ってきた運営体制や関係性をより安定させ、無理のない形で事業を継続していくための重要な節目の年と位置づけ、引き続き日常的な居場所づくりを中心に事業を実施する。</p> <p>【地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子育て中の保護者が孤立しやすく、安心して悩みを共有できる場が不足している ② 子どもが家庭・学校以外で安心して過ごせる居場所が限られている ③ 保護者自身が自己肯定感を育み、子育てに向き合うための学びや対話の機会が十分でない
<p>対象となる人・範囲</p>	<p>子育て中の親とその子を主たる対象者とする</p>

<p>事業の効果、 達成目標 (達成目標はできる限り数値で示すこと)</p> <p>記載ポイント</p> <p>事業の ・公益性</p>	<p>本事業を通じて、子どもと保護者が安心して集える居場所が継続的に確保され、心身の安定と自己肯定感の土台づくりにつながる効果が期待される。</p> <p>「食」を通じて人と人が自然につながることで、子どもは「自分は大切にされている存在である」「ここにいていい」という感覚を育み、保護者は孤立感を和らげながら、子育てに向き合う気持ちのゆとりを取り戻すことができる。</p> <p>また、R6年度・R7年度の継続的な活動を通じて、参加者が友人・知人を紹介して来場するケースや、兄弟姉妹・家族単位での参加、さらには祖父母も一緒に参加する姿が見られるようになった。これは、本事業が「安心して人に勧められる居場所」として地域に受け入れられていることの表れであり、世代を超えた交流が自然に生まれている成果である。</p> <p>月1回の絆こどもcafe、年1回の食×こどもイベント、夏休み期間中のお弁当無料配布を組み合わせることで、日常と非日常の両面から継続的な支援を行い、子どもと保護者が「いつでも戻ってこられる居場所」を持つことが可能となる。</p> <p>【達成目標（数値）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆絆こどもcafe：年間12回実施 1回あたりの利用者：親子10組 ◆食×こどもイベント：年1回実施 ◆夏休みお弁当無料配布：夏休み期間中に実施 配布対象：18歳以下のこども 1回あたり50食配布：5回開催で250食配布
	<p>① 絆こどもcafe（月1回・継続実施）</p> <p>【目的】</p> <p>食を通じて、子どもと保護者が安心して集える日常的な居場所を提供し、心身の安定と自己肯定感の土台づくりを支援する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子での食事提供および簡単な調理・盛り付け体験 ・スタッフによる見守りと、否定をしない関わり ・保護者同士が自然に会話し、悩みや想いを共有できる空間づくり <p>食事を共にする時間を通じて、「体の栄養」と「心の栄養」の両面を満たし、子どもが安心して過ごせる経験を積み重ねる。</p> <p>【実施時期】</p> <p>月1回（年間12回）</p> <p>【規模】</p> <p>1回あたり 親子10組（20～30名程度）</p>

② 夏休みお弁当無料配布

【目的】

夏休み期間中における子どもの食環境を支援するとともに、家庭の経済的・心理的負担の軽減を図る。

【内容】

- ・夏休み期間中に、子ども向けのお弁当を無料で配布
- ・「食＝体と心の栄養」という考えのもと、安心して受け取れる支援として実施
- ・必要な家庭が遠慮なく利用できる環境づくり

本事業は、単なる食支援にとどまらず、「地域に見守られている」という安心感を届けることを目的とする。

【実施時期】

夏休み期間中（詳細日程は別途調整）

【規模】

1回あたり50食配布／5回開催（計250食配布）

お弁当については
餃子の王将エソ無償提供

③ 食×こどもイベント（年1回）

【目的】

月1回の絆こどもcafeで育まれてきた「食 × 自己肯定感 × 居場所」の取り組みを、地域に向けてわかりやすく共有するとともに、趣旨に賛同する他団体とも連携しながら、子育てを地域全体で支える意識の醸成につなげることを目的とする。

本イベントは、

「食べるは、生きる。」

— 五感で感じる、体と心の栄養 —

をコンセプトに、食を通じて子どもと保護者が「生きることの豊かさ」や「大切にされている感覚」を実感できる機会とする。

食べることは、単に体を満たす行為ではなく、五感を使って感じ、誰かと分かち合うことで、心を育てる営みでもある。本イベントでは、そうした食の持つ力を、体験を通して伝えていく。

詳細

（活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する）

<p>記載ポイント</p> <p>事業の ・独自性 ・発展性 ・実現可能性 ・団体の自立促進</p>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食につながる五感体験（見る・触る・香る・味わう・感じる） ・「食＝体と心の栄養」という視点から、食や自己肯定感の大切さを伝える短時間のミニトーク（講師3名程度） <p>本イベントは、いわゆる大規模フェスティバル形式ではなく、日常的な活動の延長線上にある、温かく落ち着いた交流の場として実施する。 また、ぬくもり絆プロジェクト単独で完結するものではなく、事業の趣旨に賛同する地域団体や関係者と連携しながら実施することで、多様な関わりの中で子どもと保護者が安心して過ごせる場づくりを行う。</p> <p>【実施時期】</p> <p>R8年度中に1回</p> <p>【規模】</p> <p>来場者目標：100～200名程度</p> <p>【検討中イベント】</p> <p>本事業では、既存の取り組みに加え、以下の体験型イベントの実施についても検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★食べるは育てるからはじまる ～畑と食の体験～（仮称） 自然に触れ、作物が育つ過程を体験することで、「食べること」と「生きること」のつながりを親子で感じる機会とする。 ★育てて、つくって、かざる ～コットンリース体験～（仮称） 育てた素材を活用した手仕事体験を通じて、ものづくりの楽しさや、自然の恵みを大切に作る心を育む。 ★親子で学ぶ やさしい子育て時間（仮称） 子育てに役立つ情報やメソッドを講座形式で提供し、保護者が安心して学び、交流できる時間を創出する。
<p>重点テーマに該当する理由</p>	<p>※該当する場合のみ記入</p> <p>子どもや保護者の居場所をつくる取り組み</p> <p>絆こどもcafeでは、月1回の食事提供と親子体験に加え、不定期で体験型ワークショップや保護者交流の機会を設け、保護者の孤立予防と親子の関係性向上を図る居場所づくりを行っており、支援金の重点方針に該当する。</p>
<p>翌年度以降の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●継続的な子どもや保護者の安心安全な居場所づくり及び交流と学びの場として取り組んでいく。 ●子どもカフェ、講演会、コミュニティー、ワークショップ、イベントの企画